

資料

「夕焼け」(吉野弘)の授業記録二種

望月善次*

「夕焼け」は吉野弘の第2詩集『幻・方法』(飯塚書店, 1959)所収の作品である。教科書等教材としては、『NHK高校現代国語3』(昭和42年度～), 旺文社(高校1年, 昭和48年度～), 光村図書(中学2年, 昭和52年度～), 教育出版(中学1年, 昭和53～55年度)などにとられている¹⁾。また, 教材としての研究・実践の先行文献には, 年代順に言えば, 仲田紘基「詩の授業研究へのアプローチ」(1972-7)から, 阿部深雪「二つの詩を重ねて読ませる指導——『夕焼け』と『大阿蘇』の場合——(1985-6)に至るまで20余を数える。〔詳しくは本報告末尾の「『夕焼け』(吉野弘)実践・研究文献目録」参照〕

これらの先行研究がいかなる進展を見せ, いかなる課題を抱えているか, かつそれらの中で今回の授業記録がいかなる位置を占めるものかについての詳細については, ここでは許された紙面の関係からその具体に及んでいる余裕がない。(筆者としては別に論じる予定である。)

従ってここでは, 今回の授業記録が有する意味を三つに限定して, しかも結論的に述べておく。

① 授業A〔授業者:筆者〕, 授業者B〔授業者

:穴久保裕之, 教育実習以前の本学部3年次生。今回の授業は最初の授業である。尚, 筆者が, 随所で「介入」している。〕との組み合わせは従来見られることの少なかった組み合わせである²⁾。

② 授業Aは, 「夕焼け」実践史上で3点の明確化(a~c)と朗読のあり方(d)とにおいて新しさを有している。

a) 「受難(者)」と「受験」「受賞」などとの相違

b) この作品における「やさしさ」の核心行動: 3度目に立たなかった。

c) 作者の作戦二つ=悩むが故の「やさしさ」+「夕焼け」と「やさしさ」との離れ

d) 教師の読み(授業最終読み)と朗読の頻度。

③ 授業Bの授業者は, 教育実習以前の学生であるが, このケースでの全時間カバーの授業記録は, 少なくとも「夕焼け」実践史においては存在していない。

授業記録は当然のことながら, 原テープ〔岩手大学教育学部附属教育工学センター所蔵VTR〕からの忠実な記録を心掛けた。しかし, 「えー」「あー」などの口癖については, 余りにも煩瑣になるところは省略した。また, 意味の通りにくくなっているところや, 誤りのある箇所については補いや〔()表示した部分は原テープにないことを示している〕注記をつけている。

また, 筆者としては授業記録には指導案や内的記録〔特定場面における意図や反省点〕も記してあ

* 岩手大学教育学部

1) 以下による。

野村由香里「吉野弘の詩——国語教材としての考察——」, 『奈良教育大学 国文——研究と教育——』No.8 (1985-3)。

2) 同一教材・異教師の授業を対比検討しようとする試みとしては, 異教科であるが次がある。

細田武良「同一教材での異なる教師の二つの授業」, 教授学研究の会編『第Ⅱ期教授学研究1 実践の事実立つ授業研究』(国土社, 1981-5) pp. 8~31。

ることが望ましいと考えるが、今回はそれも果たしていない。これまた、紙面の制約による。

尚、今回報告の二つの授業はいずれも「国語科教育学演習」（昭和60年度後記）の一環として行われたものである。授業の機会を与えてくれた盛岡市立北陵中学校及び、これらの授業に至るまでの協力を受けた本学部附属中学校、盛岡市立上田中学校の各位に改めて感謝したい。

授業 A

授業者：望月善次

実施目的：上記4点の検証。

実施学校：盛岡市立北陵中2年6組

実施期日：1985.10.11(金)

T₁ 岩手大学の望月です。今日は皆さんと勉強できるというので張り切ってやってきました。

〔最初に次の作品を紙板書で示す。〕³⁾見える？

下は？

夕焼け

吉野 弘

いつものことだが
電車は満員だった。

そして

いつものことだが

若者と娘が腰をおろし

としよりが立っていた。

うつむいていた娘が立って

としよりに席をゆずった。

そそくさととしよりが座った。

礼も言わずにとしよりは次の駅で降りた。

娘は座った。

別のとしよりが娘の前に

横あいから押されてきた。

娘はうつむいた。

しかし

又立って

席を

そのとしよりにゆずった。

としよりは次の駅で礼を言って降りた。

娘は座った。

二度あることは と言う通り

別のとしよりが娘の前に

押し出された。

可哀想に

娘はうつむいて

そして今度は席を立たなかった。

次の駅も

次の駅も

下唇をキュッと噛んで

身体をこわばらせて――。

僕は電車を降りた。

固くなってうつむいて

娘はどこまで行ったろう。

やさしい心の持ち主は

いつでもどこでも

われにもあらず受難者となる。

何故って

やさしい心の持ち主は

他人のつらさを自分のつらさのように

感じるから。

やさしい心に責められながら

娘はどこまでゆけるだろう。

下唇を噛んで

つらい気持ちで

美しい夕焼けも見ないで。

T₂ 吉野弘って人は知っていますか？ 今まで何かやったことある？ 今まで吉野弘って人の名前知ってた人、「夕焼け」の前に？ じゃあ、初めて？

3) 北陵中使用教科書である光村図書版によろうとした。

それでは、今日は一緒に「夕焼け」の勉強をしたいと思いますが、この詩に入る前にちょっと朝のトレーニングをしたいと思いますので、この詩は別にしてね、皆さん「夕焼け」と聞いたらどんなふうに思うかってところから入りたいと思いますので、連想ゲーム式に「夕焼け」って聞いたら考えつくものをパッと行って欲しいんです。いいですか。この詩を別にして「夕焼け」と聞いて考えつくものをパッと行ってください。

それで連想ゲームですからね、パッと想いつかなかったら、パスして次の人に行って下さい。いいですか。そして、しばらくするとその人に戻って行きますから。やり方分かりますか。「夕焼け」から想いつくものを連想ゲーム式にパッと行ってください、どんなものでもいいですから。この詩とは関係ありません。「夕焼け」って言った時に想いつくもの、それを言ってください。

で、順番はね、折角さっき伊藤君を言いましたんで……〔*座席確認の際この生徒を尋ねた〕伊藤君のところから横に行きましょう。伊藤君の横は黒丸君でいいんでしょうか。伊藤君から黒丸君に行って、高代君、高畑さん、こういうふうに行きますけど。後ろの人に、ざっと、こう一番列の一番後ろの人にやってもらいます。

「夕焼け」って言ったら、気がつくものをパッと挙げてください。で、自分が気がついたものを隣の人が言っちゃったっていう場合もあると思うんですけど、その時はパスしてね、ちょっと考えてください。後でまた戻りますから。いいですか。

それではね、行きますよ。はい、それじゃあね伊藤君から行きましょう。はい、「夕焼け」って言ったら気がつくものを挙げてください。

C₁ 家に帰る。〔歓声〕

T₃ は？

C₂ 家に帰る。

T₄ おー。最初から難しいのが出てきたね。〔板書しながら〕字がいい加減でまズいんだよね。先生ねこの間あるところで（授業）やったら怒られましたね。

これは伊藤説ということですね。はい、黒丸君でしょうか。はい。

C₃ オレンジ色。

T₅ オレンジ色ね？ はい、オレンジ色。これは黒丸説ですね。はい、それじゃあね、横に行きましょう。高代、高代君でしょうか。

C₄ 赤とんぼ。

T₆ あっ、赤とんぼね、

では、ちょっとごめんなさい。先生はね、高代君の後ろは何君だろうか。〔備えつけの座席表と実際に坐っている生徒とがずれていた〕

C₅ 小沢君。

T₇ は？

C₆ 小沢

T₈ 小沢君？ 小沢君。あ、先生ね、ちょっとこれも申し訳ないんだけどね、小さい時ね、中耳炎で耳を悪くしましてね、左がよく聞こえないんです。で、ちょっと大きな声で言ってくれると有り難いね。で小沢君ね。〔3分経過〕じゃあ、すみません。一番後ろということで、ちょっともう座席表を見ていたもんですから飛ばしました。じゃあ、小沢君どうでしょうか。

C₇ 梅干し。〔笑い〕

T₉ 梅干しね。これは凄いね。梅干し、これは小沢説ね。じゃあ、横に行こうかな。はい、女性軍の高畑さん。

C₈ もうすぐ夜。

T₁₀ は？

C₉ もうすぐ夜。

T₁₁ もうすぐ夜。なるほど。これは高畑さんの説です。じゃあ、あと二人いますね。田口君でしょうか。

C₁₀ そろそろ陽が沈む。

T₁₂ さらさら？

C₁₁ そろそろ。

T₁₃ さらさら陽が沈む。

C₁₂ そ！

T₁₄ えっ、そ！「そろそろ」ね、ごめんなさい。いかに耳が悪いかということがバレてしまったね。そろそろ陽が沈むね。ちょっと小さくなってしまったけど〔黒板のスペースの関係〕これは、田口君の説です。じゃあ、最後。えーと、松本さん。

C₁₃ 真っ赤な太陽。

T₁₅ 真っ赤な太陽ね。これは松本説。

じゃあね。今ね、伊藤君から始まって、黒丸君、高代君、小沢君、高畑さん、田口君、松本さんでしょうか、えーと1, 2, 3, 4, 5, 6, 7人の人に言ってもらったんですけどね。「夕焼け」って言うと家に帰る、「夕焼け」って言うとオレンジ色、「夕焼け」って言うと赤とんぼ、「夕焼け」って言うと梅干し、「夕焼け」って言うともうすぐ夜、「夕焼け」って言うとそろそろ陽が沈む、「夕焼け」って言うとき真っ赤な太陽。こういうふうに出たんですけどね、皆さんはね、この中でね、あー自分ならこれがいい、「夕焼け」って言ったらこれに近いっていうものをね、この中から選んで手を挙げてください。いいですか。

それでね、一人2回まで、一人2回までね。まあ全部に手を挙げたいって人もいますけれども一人2回まで手を挙げてください。

はい、じゃあ、家に帰る、家に帰るっていう人。はい。〔確認して板書する〕はい、その次オレンジ色。それから、赤とんぼ。ちょっとね、数にいい加減な人なんですよね、先生は。じゃあ、梅干し。はい。もうすぐ夜。はい。そろそろ陽が沈む。〔6分経過〕で、真赤な太陽。はい。〔挙手の数を確認しながら〕大体こんなかな？

えーと、家に帰るが一人、オレンジ色っていうのが7人、赤とんぼが40人、梅干しが一人、もうすぐ夜ってのが一人、そろそろ陽が沈むが

沈むが8人、真っ赤な太陽が37人、と数字が多少おかしくなっているけど、皆の支持が多かったのはね、赤とんぼとか、真っ赤な太陽とかいうのですね。

これは勿論数が多ければいいというのではないわけです。どれがいいかって言うと、これは中々難しい問題です、どれがいいかって言うのはね。

先生が感心したのはね、えーと家に帰るといふのと、そろそろ陽が沈む、この出方に感心しました。しかし、何と言っても今日のヒットは梅干しではないか〔笑い〕と僕は思いました。まあね、しかし、それは人それぞれの、好みですからね、どういうのがいいのかはね。

皆が選んだような、「夕焼け」っていうと想いつくのに、こんなのがあって、特に人数が多かったのは、〔板書を指しながら〕こんなところに多かったよっていうこと、そういうところをちょっと押さえておきましょう。それで、吉野弘さんの「夕焼け」に入っていきますよ。

あのね、読んできている人もいますですけど、ちょっと皆で1回読みましょう。少し字が小さいから読みづらいかも知れませんが、前の方を見ながら読んでください。一緒に読みましょう。最初一行だけ、「夕焼け」、吉野弘といますから、この「いつものことだが」って所から一緒によんで行きましょう。

「夕焼け」、吉野弘。はい。

C₁₄〔朗読〕

T₁₆〔朗読の声が段々小さくなるので〕

はい、ストップ。あの、詩の場合はね、やっぱり声をだして読むってことが必要なんです。歌なんかと同じなんですけど、声を出して読むことが非常に大切なんです。ですから、目で追うだけではなくて、声を出して読んでください。はい。「二度あることは」から行きますよ。はい。

C₁₅〔朗読、途中で9分経過〕

T₁₇ 迫力がいいよねー。

それじゃあ、次にね、次に皆に読んでもらいたいですけれども、今日はどれだけ速く読めるかっていうのをやりますので、いいですか。どれだけ速く読めるかって。

で、その時条件がありまして、必ず声を出して読むこと、声を出して。目じゃあ駄目ですよ。必ず声を出して、声を出して3分間読んでください。3分間に何回読めるか、そういうことをやってください。3分間にどのくらい読めるか、そういうふうにするんですけども、ちょっと読む前にね、まず読めない字とかっていうのがあるとまずいので、この字はどうかかっていうのがありますか。確認しようか、ちょっと、これどうですか。「そそくさととしよりが……」

C₁₆ 「すわった」。

T₁₈ 「座った」ね、はい。「礼も言わずにとしよりは次の駅で……」

C₁₇ 「おりた」。

T₁₉ 「降りた」ね。「座った」、「降りた」。

これはどうかな。これはどうですか？

C₁₈ 「かわいそうに」。

T₂₀ 「可哀想に」ね。「きゅっと……」

C₁₉ 「かんで」

T₂₁ 「きゅっと噛む」ね、「きゅっと噛んで」。

これは？

C₂₀ 「じゅなんしゃ」。

T₂₂ 「受難者」。これは？

C₂₁ 「なぜって」

T₂₃ 「何故って」ね。こんなところかな。他にありますか。ちょっと、じゃあ復習をしますね。「座った」、「降りた」、「可哀想に」、「きゅっと噛んで。下唇をきゅっと噛んで／身体をこわばらせて」これは(教科書に)仮名が振ってあるかな。それから「受難者となる／何故って」。こんなところですね。意味はどうですかね、意味は。意味はいいかな？

C₂₂ [特に答えず]

T₂₄ 読んでからやろうか、ね。じゃあ。

一応読んでからやりましょう。じゃあ、1分間だけちょっと練習しますので。練習したあとで、3分間でどれくらい読めるのかというのをやりますので、じゃあ時間を計りますんでね。1分間だけ練習します。じゃあ、いいですか。はい、1分間で練習しますよ。はい、用意……スタート。

C₂₃ [朗読(1分間予定)]

T₂₅ [机間巡視] はい、必ず声を出して読んでくださいね。[12分経過] 詩を読む際は必ず声を出して。必ず唇を動かして。黙読ではなく、必ず唇を動かしてください。

あと10秒位ですよ、練習は。

はい、終わり。じゃあ、本番行きますよ。3分間で何回読めるか、何回何行っているのね。3分びったりで止めますので、できるだけ沢山読んでください。いいですか。じゃあ、必ず題と作者を入れて。はい、それじゃあ、いいですか。

はい、始め！

C₂₄ [「スピード読み」(3分間予定)]

T₂₆ 終わったら2回、3回と読んでくださいね。

[15分経過]

丁度半分ですよ。

はい、あと大体30秒。

はい、あと10秒ですよ、あと10秒。

はい、終わり。はい、止めてください。じゃあ、ちょっと聞いてみましょう。3回読んだっていう人。3回以上の人？

C₂₅ [挙手：殆ど全員]

T₂₇ はい、4回、4回読んだっていう人？

C₂₆ [挙手：約10名]

T₂₈ あー、はい。5回以上読んだっていう人？

5回以上、はい。

C₂₇ [挙手せず：但し、5回以上の「以上」の理解の仕方が異なったためか、次のような擦れ違い

いが起こる)

T₂₉ じゃあ、4回の人続けて手を挙げてください。

4回の人、はっきり手を挙げてね。こう、こう行を先生追って行きますから〔板書の作品を指示棒で追う〕自分のところを過ぎたら手を下ろしてください。はい……はい……はい……。〔確認〕あっ、最後まで行った？ 5回行った？ じゃあちょっと、いいかな。今聞き方が悪かったんだ。4回読んで5回目ということでよかったんでしょうか。4回め？ 今手を挙げた人4回目、皆？ 4回目ね、4回目。そうか、じゃあ、4回読み終わったという人は4回。4回読み終わった以上の人はいら？ 5回目に入った、5回。ちょっと5回目に入った人は手を挙げてください。はい、じゃあ、2人いるんだ。

ちょっと、じゃあ、もう1回。〔作品を示す〕はい。〔確認〕

はい、あなた、何君だけ。

C₂₈ 桜田。

T₃₀ え？ 桜田君ね、桜田。桜田君が「しかし」の部分。〔続いて確認〕はい、「固くなって」までね。何さんだけ？ 何さん？

C₂₉ 中村。

T₃₁ 中村さんね。中村さんが「固くなって」の所までね、はい。

これどの位かな。先生この間やってみたらね。3回がちょっと苦しかったんですけどもね。〔18分経過〕皆さんは3回読めた人が大分いたようですけれども。まあ、沢山ある練習、読み方の練習としてね、例えば短時間でできるだけ沢山読んでみるっていうのは一つの方法です。

さあ、それじゃあね、さっき、ちょっと持ち越しましたけれども、分からない言葉ってありませんか。分からない言葉、どうでしょう。

C₃₀〔挙手等反応なし〕

T₃₂ ちょっと、あの中村さんに聞こうか。じゃあね、速読みのチャンピオンの中村さんにちょっと聞きましようか。何か分からない言葉ない？

C₃₀「横あいから」

T₃₃ あ、すみません、何？

C₃₂「横あいから」

T₃₄ あー「横あい」ね。「横あい」っての誰か分かる人いませんか？ 誰もいない？

「横あい」のね、「あい」っていうのが、きっと分からないんでしょ。この「あい」っていうのはあんまり意味がないんです。「横から」っていうのと同じような意味なんです。他にありませんか。じゃあ、誰でもいいですよ……川内君。

C₃₃「受難者」

T₃₅ あ、「受難者」ね。

そうか。この「受難者」というのはちょっと大物だから後でやりましょう。「受難者」はこの詩の中で一番難しいところです。じゃあ、川内君のは（今は）やりませんので、その他にあったら？ ちょっと、その他にありませんか。「受難者」は後でやりますから。

C₃₄〔意見出ず〕

T₃₆ じゃあ、先生の方から聞こうかな。

「そそくさ」って分かりますか。「そそくさととしよりが座った」の「そそくさ」、どうですか。

C₃₆〔意見出ず〕

T₃₇ これはね。「あわてて」っていうふうな意味ですね。慌てる様子です。だから、例えば「そそくさ坊主」って言葉があるんですが、そうするとそれは、「あわて坊主」っていうことになる、その「そそくさ」ですね。

それからね、そうだねー、「われにもあらず」っていうのがちょっと難しいんですけど、これ分かる人いる？ どう？「われにもあらず」？

C₃₆〔意見出ず〕

T₃₈ これはねー、「自分から進んでではなく」という意味です。

ちょっと、じゃあその点を（紙板書に）出しますので、序に、川内君から出た「受難者」というのもやりましよう。これは、ちょっと難し

いですよ。[いままでの難語句についての紙板書]

「そそくさ」っての分からなかった人どれくらいいますか。ちょっと手を挙げてみてください。[21分経過]

C₃₇ [挙手, 大多数]

T₃₉ はい、はい。あの、これ〔紙板書〕さっきも言いましたが〔授業最初の作品提示の際〕、下の方は見づらいかも知れませんが「そそくさ」っていうのは、「慌てる、慌てていて落ち着きがない様子」なんです。「そそくさととしよりが座った」(は)「慌ててとしよりが座った」という意味になります。

それから、何でしたっけ。〔助手役の学生が、「われにもあらず」と言う〕お姉さんが「われにもあらず」って行ってますけれど、「われにもあらず」いうの分からなかった人どれくらいいますか？ はい、「われにもあらず」は？

C₃₈ [挙手: 大多数]

T₄₀ (紙板書が) ちょっと、見づらくなりましたが、「われにもあらず受難者となる」、これは、「自分からではなく」という意味ですね。

それじゃあね、川内君から出ました大物である「受難者」をやりましょう。

誰か「受難者」っての分かる人いますか。

C₃₉ [挙手等なし]

T₄₁ じゃあ、「受難者」っていうのは分からないけど「受」がつく言葉だったら言えるという人いませんか。「受」なんか……。

C₄₀ [挙手なし]

T₄₂ 大石さん言えるかな？ はい。

C₄₁ 「受験」。

T₄₃ そう、「受験」ね。「けん」は両方あると思うんですけど、こっちの〔「験」〕でいいですか。

皆、「受験」というのは試験を受けることだね。試験を受けること。他の何か言える人いる？ あなた、どうかな？

C₄₂ [指名されたので立ったが、首を捻っている]

T₄₄ はい、どうも。じゃあ、あの「受験」で説明しますけれど、「受験」っていうのは試験を受けることですね、試験を受ける。じゃあ、「受難者」のね、「受難」というのは、「受難」というのは「難を受ける」ってことなんですね、「難を受ける」。

「難」というのは何だろう。「難」っていうのは何でしょうね、ってシャレみたいですけど「難」というのはどんな意味でしょうか？

C₄₃ [意見なし]

T₄₅ えーと、それではね。こういう場合は〔「難」に「しい」を送る〕読めますか？

C₄₄ [呟き]「むずかしい」。

T₄₆ えっ。うん、「むずかしい」って読むね。〔24分経過〕「受難者」の(「難」の中には)「難しい」っていう意味があるんですけどね、この詩の場合にはね、まあ「苦しみ」っていう意味ですね。「苦しみ」という意味です。

それでね、注意することが一つあるんですけども、苦しみを、苦しみを受けるのをね「受難」って言って、そういうのを受ける人を「受難者」って言うんですけども、例えばねえ、例があまり良くないんですけども……。先生学生時代あまり勉強しませんでしたのでね、何年か落第していたんですけども、例えばね、勉強しないから落第をするっていうのは「受難者」になるでしょうか？ 勉強しなかったから落第した、「受難者」になるでしょうか。苦しみを受けるでしょう、落第ってのは苦しいんだよ、普通はね。喜んで落第する学生ってのは、あまりいませんね。

そうすると、「受難者」っていうのとどうなんでしょうね。「受難者」っていうのはね、その点がちょっと違うんですけどね。

「本当は、自分が受けなくてもいい苦しみを受ける人」を「受難者」って言うんですね。試験とか……例えば、交通事故でもいいんですけど、スピード違反するでしょ。そういう違反し

したことはないかな？ スピード違反して、例えば捕まっちゃうとしますね。そういうのは、もともと捕まって当たり前ですから「受難者」って言わないんですね。本当はね、本人が、本人が受ける理由がないのに苦しみを受けるのを「受難者」と言います。

そこが「受難」なんかの場合とね、ちょっと違う点なんですよね。〔紙板書を示す〕

「受難者」というのは、本当は受けなくてもいい、ここが重要なんですけど、そういう苦しみを受ける人、そういう意味です。

田口君にちょっと、もう一度読んでもらおうかな。はい、見えますか？ そこから、上から〔「受難者」〕これを読んで、下を〔「受難者」の説明の部分〕を読んでください。

C₄₅ 「受難者」。

T₄₇ はい。

C₄₆ 「本当は受けなくてもよい難(苦しみ)を受けること」。

T₄₈ そうですね。そういうのを「受難者」って言う訳です。一応そんなのを頭に入れておいてください。

で、この詩の中では、「受難者」は誰なのかなっていうふうに考えてもらうといいわけです。

川内君、一応いいかな、「受難者」ってこと。〔27分経過〕

T₄₉ それじゃあ、この詩の中では「受難者」は誰だろうか、なんて考えてもらいながら、もう一度皆に読んでもらいましょうね。今度はね。読み方をちょっと変えましょうね。

えーと、どう行くかっていいますと、一人一行ずつ行きますので、いいですか。スタートは黒丸君にしましょうね。黒丸君のところから、こう前に行きますので、黒丸君が「『夕焼け』吉野弘」って読みましたら、その次の、えーと、東海林君？

C₄₇ 東海林。

T₅₀ 東海林君？ うん、東海林君がね、「いつも

のことだが」と行きます。そうすると、その前の菊池さんでしょうか、菊池さんがね「電車は満員だった」ってこういうふうにどんどん行きます。それで、前に行ったら後ろにこういうふうに〔次の列への移り方を指示。いか同じ〕行きますんでいいですか。こういうふうに、こういうふうに、こう、こう行って、こう行って一番後ろまで行ったら、また黒丸君に行きますんでね。間を開かさずに行くってのがコツです。いいでしょうか。いいですか。黒丸君いい？ いい？ じゃあ、スタートするよ、はい。

C₄₈ 〔読む。〕

T₅₁ 〔一人一人に「はい」と対応、9人目が終わったところで、頷く〕

はい、よし、じゃあ、「しかし」から行こう。そのところ、分かれているところが重要なんだよね。はい、「しかし」は、誰に行くんだろう。はい、じゃあ、「しかし」のところ。はい。

C₄₉ 〔読む〕

T₅₂ 見えるかな。

C₅₀ 〔読む〕

T₅₃ はい、ちょっと待ってね。このところを、ここからもう一回行きましょう。はい、ちょっと待ってね。「やさしい」からもう一回いこう。

C₅₁ 〔読み終了〕

T₅₄ はい、この「囃んで」ってところが皆の本と違っているね。皆のは漢字になってるね。ちょっと、これは失礼しました。〔30分経過〕

ああくたびれたね。でも、これ中々難しいんですけども、このクラスは非常にうまいと思えました。なかなかこううまく行かないんですよ。そしてね、あの全員がね、きちんと読めたっていうことは非常にいいことだと思います。

T₅₅ さあ、それじゃあ、さっきね、川内君から出たでしょう。「受難者」ってのが出ましたけれども、「受難者」っていうのは、この詩の中では誰のことですか、「受難者」ってのは誰のこと？ えーとね、1、2、3、4、5人目かな、

1, 2, 3, 4, 小野寺君かな, はい, はい, どうぞ。

C₅₂ 「若者」。

T₅₆ えっ, ああ「若者」ね。〔板書しながら〕はい, 何人かの人に聞いてみようかな。〔板書のスペースがなくなって来て〕どこに書いたらいいのでしょうか。

はい, この詩の中における「受難者」は誰か。小野寺説は「若者」ですね。はい, じゃあ, あとは? 〔黒板に立て掛けておいた小黒板が落ちる〕

C₅₃ あーっ!

T₅₇ これで地震でもあったら大変だね。本当に「受難者」になってしまうね。

はい, その前。あ? はい, 訂正? はい。

C₅₄ 間違ったので。

T₅₈ はい, いいですよ。どうぞ。

C₅₅ 「娘」。

T₅₉ じゃあ, 小野寺説の二つで聞きましょう。どうして小野寺君, 最初「若者」って思ったわけ?

C₅₆ 勘違いした。

T₆₀ あ, 勘違い。はい, じゃあ, これは, この小野寺説から「若者」は消えましたけれども, 「娘」以外だっという人いますか。

C₅₇ 〔挙手等なし〕

T₆₁ じゃあ, この中で「受難者」は, 「娘」じゃあないかって思う人, ちょっと手を上げてくれる?

C₅₈ 〔殆ど全員挙手〕

T₆₂ はい。まあね, あとで, あとで見て行きますけれども, 「受難者」は, 「受難者」ってのは, この詩の中では「娘」のことを言っているんだということだね, それでいいと思うんです。

「受難者」というのはこの詩の中では娘のことを言っているんだと。

それではね, じゃあ, 皆さん, 「娘」, 「娘」についてどう思いますか。この「娘」についてどう思ったかってことをね, 意見を言ってもらお

うかな。この「娘」についてどう思ったか言える人いる?

C₅₉ 〔挙手等なし〕

T₆₃ ここは手を挙げてもらおうと思ったんですけど, 普段は手を挙げないのでしょうか。挙げない? 〔33分経過〕

C₆₀ 〔特に反応なし〕

T₆₄ 小野寺君の前は, 瀬田君でしょうか。瀬田君から行こうか。

C₆₁ やさしいから。

T₆₅ ちょっと待ってね。「受難者」である「娘」。

この詩の中では「娘」のことを「受難者」と言っているんですけども, その「受難者」になった訳をどう思うかっていうのを「やさしい」, 「やさしい」からっていうのが, これが瀬田説。

そうだねー。女性陣にも聞こうかな。じゃあ吉田さんどうでしょうか。

C₆₂ 気が弱い。

T₆₆ は?

C₆₃ 気が弱い。

T₆₇ あ, 「気が弱い」ね。〔板書〕。そうだねえ, もう一人行きましょう。その前の佐々木さんに聞こうかな。

C₆₄ —— 〔音声不明〕。

T₆₈ すみません。ちょっと大きめに言ってください。

C₆₅ 〔繰り返す〕

T₆₉ すみません。前半の方をちょっと。

C₆₆ 〔繰り返す〕

T₇₀ は? 前半の方をちょっと。

C₆₇ 〔繰り返す〕

T₇₁ ごめんね。さっき言ったけど先生ちょっとね耳が遠いからね。もう一回言ってください。

C₆₈ 〔繰り返す〕

T₇₂ はい, その次は?

C₆₉ 同じで……。

T₇₃ あ, 同じ?

C70 はい。

T74 はい、ごめんなさい。はい、これは矢礼しました。

はい、佐々木さんと同じだということでしたが、じゃあ、ちょっと理由を聞いてみようかな。どこから「やさしい」と思ったのかな。あるでしょ。

あ、吉田さんのはちょっと違うね。吉田さんのから先に行きましょうか。ね、どこから「気が弱い」と思いました、吉田さん？

C71 あの一、何ていうか、3人目の「としより」の時に席を譲らなかつたから。

T75 あ、3度目ですか。

C72 3人目の人に席を譲らなかつたから。

T76 譲らなかつたのね、はい、はい。吉田さんの「気が弱い」というのはね、どういうところから来たかっていうと、3人目、3人目の人にお席を譲らなかつたのね、そういうところから、この人は「気が弱い」んじゃないかなーと思ったという訳ですね。はい。

えーと、瀬田君と佐々木さんの「やさしさ」の訳は、どうなんだろう。どういうところから思ったわけ？ ちょっと言ってよ。

C73 はい。最初の二人に席を譲ったから。

T77 はい。これは、二人に席を譲った、はい。そうすると佐々木さんの方はどうですか。〔36分経過〕

C74 席を譲らなくても、下唇をキュッと噛んで身体をこわばらせていたから。

T78 はい、はい。瀬田君の方は二人目の、二人目の人までに席を譲ったから。それから、佐々木さんは、席を譲らなくても下唇をキュッと噛んで身体をこわばらせていたから。こういうことでいいですか？ はい。

ちょっと皆も、皆に、あの一ダブっている面もあるんですけどね。他の人も同じだということも聞きましょうかね。先ず、吉田さんのこの娘は三人目の人にね、席を譲らなかつたから、気

が弱いんじゃないか、とこういうふう思った人いますか？

C75 〔同調者なし〕

T79 あっ、他は、他はいないわけね。皆、皆席を譲るのかな。

それはまあ脱線です。はい、その次にね、瀬田君のね、この娘はね、瀬田君が出した、この娘は、二人目までの人に席を譲ったからやさしいんだ、そう思う人。

C76 〔挙手、はっきりしない生徒数名〕

T80 ちょっと、はっきり手を挙げてごらん、はい、はっきりと。

C77 〔挙手〕

T81 はい、6人かな。えーと、今のちょっとすみません。もう1回手を挙げて。ごめん、悪い。

じゃあね、川内君、今日は川内君にあの一。何故ってことなんか、補える点ありますか。二人、二人目ってことで、瀬田君が言ったのと違うことを付け加えることある？ あった？ ないね。はい、じゃあ、それはいいです。

じゃあ、次ね、その次の佐々木さんのね、席を譲らなくても下唇をキュッと噛んでいたからやさしいんじゃないかって、そういう人いますか。

C78 〔挙手、20人程〕

T82 はい、手を挙げなかつたっていう人いる？ どちらにも手を挙げなかつた人。

C79 〔挙手〕

T83 はい、ちょっと待って。あなた、何か理由ある？ もし、あるんだったら……。

C80 えーと、私はその二つじゃあなくて、「かわいそう」って思うから。〔39分経過〕

T84 あ、「娘」をかわいそうだと思ったわけね。なるほど。かわいそうだっていうのは、えーと今は何さんでしたっけ？ 高畑さんでした？ 高畑さん？ 手を挙げなかつた人で高畑さんと同じだったという人いる？

C81 〔挙手なし〕

T₈₅ はい。えーとね、じゃあこの高畑さんの問題はちょっととっておいてね、瀬田説と佐々木説の対立ってのは、ここでは、凄（凄く）この詩ではね、重要なんだよね。

「娘」が「やさしい」のは何故やさしいのかと、この吉野、まあ本当は「吉野さん」というのはよくないんです。何故「僕」は、「僕」の方がいいですね。何故「僕」は「娘」が「やさしい」と言ってるかって……。

それでね、もう一度読みますので、筆者はね「娘」が、「娘」の行動は3回あるよね3回、最初に席を譲る、2番目に席を譲る、3番目に席を譲らない、そのうちのね、どこを一番書きたかったのかなあってことを、ちょっと先生が読みますので、それを聞きながらね、聞きながら考えてください。「僕は電車を降りた」まで行きますよ。

〔朗読〕

さあ、1回目か、作者がね、一番書きたいと思ったのは、1回目か2回目か3回目か。

いいですか。はい、1回目だと思う人。1回目のところ。一番書きたかったところ。いませんか。

C₈₂ 〔挙手なし〕

T₈₆ 2回目だと思う人。

C₈₃ 〔挙手なし〕

T₈₇ 3回目だと思う人。

C₈₄ 〔ほぼ、全員挙手〕

T₈₈ はい、はい。いいです。まあ、皆がねえ、全部3回目になりまして、これはねえ、或る面では面白くないんですけどね。他のところでやりますと1回目や2回目の人も出て来るわけなんですけれど。〔42分経過〕

実はね、今皆が読んでくれたところでね、3回目のところを書きたかったんですね。〔終了ブザー：当日は他のクラスは5分短縮授業。該当クラスのみ50分授業であった。また当日の始業時間もこのクラスはずれている。〕あー、今

日は、（他のクラスは）短縮授業だそうですね。このクラスは（いつもと同じように）50分でやりますので、ちょっと「かわいそう」だね。

3回目のところだね。3回目のところに、この人がね、書きたい、一番書きたいことが出てくる。それは、皆が読んでくれた通りなんです。そして、3回目の、3回目のところに書いてあることがここで一番言いたい「やさしさ」の中心なんです。もう一度読んでみますよ。〔朗読：「二度あることは」～「僕は電車を降りた」。尚、最後の一行については「ここには3回目に入るかどうかもめているんですけどね」を付け加えた。〕

というふうにね、この中に「娘」の、ここで言うね、「娘」の「やさしさ」、「やさしい心の持ち主」って言うね、「娘」の、「娘」の行動が一番よく現われているっていうふう書いてある。この詩では。だから、普段、僕らは、僕らは「やさしい」人だっていうと親切な人のこというでしょ。ですから、例えば席を譲ってあげたとかそういうことが「やさしい」ことなんですけれどもね。この、この詩の中で言っている「やさしい」っていうのは、そういう意味ではありませんで、正確に言えばそういうことだけではありませんで、こうやってね、「（下）唇をキュッと噛んで／身体をこわばらせてー」って、こういうふうなことが「やさしい」というふう言うんです。

つまり、こう悩んでる娘さんですね、そういうようなのが「やさしい」んです。それで、その悩んでいる「娘」は、なやんでいる「娘」が「やさしい」わけですね。で、「やさしい」から悩んで、そうすると悩むという受難、苦しみを受けるわけですね。そういう、悩む中、反対からいうと、悩んでいく中にある「やさしさ」のようなことを、この詩では言っているわけですね。そういうことがね、他の面からも分かる点がありまして……。この「娘」の行動の中で

ね、この詩の中では、この詩は、何回も同じところがね、繰り返され、繰り返されるところがあるんですけどね。例えば、「いつものことだが」とまた「いつものことだが」って出てくるでしょう。三回以上も繰り返されている言葉がいくつかあるんですね。三回以上も繰り返されている。分かりますか？

今度は目で追ってもらおうか。〔紙板書を示す。45分経過〕見つかるかな？

はい、分かりましたか。一つは「うつむいていた」というのでしょうか。もう一つは「やさしい心の持ち主」〔下線部まで入れると2箇所〕っていうのがあるでしょう。と、この「娘」は、「娘」のね、「やさしい」としてこの中の一つは「うつむいていた」としてところに出てたんですね。それで、整理するとね、こんなふうに見えるんじゃないかと思います。〔紙板書：「悩む」＝「娘」＝「やさしい」＝「受難者」〕

「娘」は、これ〔紙板書〕（順番が適切）かどうか分かりませんが、「娘」は「やさしい心の持ち主」でその「やさしさ」は「悩んでいる」ところに一番出ている。

で、それを「受難者」とこの詩の中では言っているんですね。

ですから、この詩の中で吉野さんがとっている作戦が二つありまして、一つはですね、「娘」をこういうふうに〔紙板書〕やったってことですね。悩んでいる「娘」を「やさしい心の持ち主」だとした、これが作戦の一点なんです。

この作戦はうまいなあって思う人と、いやあそれほどでもないなあとと思う人がいると思うんですけども、この点は皆さんはどうでしょうか？ 普通のね、「やさしい」とは別な、悩んでいることが「やさしい」んだというふうにしているわけなんです。そこが面白いんじゃないかと思う人どの位いる？

C₈₅ 〔ほとんど全員挙手〕

T₈₉ はい。これはちょっと納得できないって人い

ませんか？

C₈₆ 〔挙手なし〕

T₉₀ いない？ こういう人もいるんだよね。これ、これはちょっと納得できないよっていう人もいますけれども〔その問題は時間の関係で〕ちょっとそこまでやっつけられません。

〔時間最初の連想ゲーム式「夕焼け」の結果を記した黒板を持ち出しながら〕それからね、もう時間が有りませんので急ぎますけれども、もう一つの作戦はね、最初に皆さんに「夕焼け」ってのを出示してもらった時こんなのが出たでしょう。「家に帰る」、「オレンジ色」、「赤とんぼ」、「梅干し」、「もうすぐ夜」、「そろそろ日が沈む」、「真っ赤な太陽」とね。

この中には「やさしさ」としてのは全然出てきませんよね。ところがですね、「やさしさ」というものと、この「夕焼け」としてのこれを結びつけている。そこが作戦の第2の点なんです。

ちょっと、最後のところ、急いじゃいましたけれども、もう時間も過ぎてますので、あと先が一度読んで終わりにします。少し、繰り返したり、繰り返して読んだりしますから、読み方がちょっと変則的ですけど、読んで終わりたいと思います。〔48分経過〕

〔朗読。強調したい点は繰り返し読む〕

終わらしましょう。はい。〔50分16秒〕

授業B

授業者：穴久保裕之（望月善次介入）

実施目的：次の2点を検証する。

- ① 1時間の授業で、「娘」の席をゆずらない場合の「やさしさ」を、どこまで理解させられるか。
- ② 最初の授業（教育実習の経験無し）で、①の目標がどれだけ達成できるか。

実施学校：盛岡市立北陵中2年8組

実施期日：1985.10.11（金）

- T₁ それじゃ最初に私が読みますので、聞いてて下さい。〔『夕焼け』を教師Tが読む。〕
- T₂ じゃ今度は、みんなに、読んでもらおう、と思います。
- じゃ、最初、全員でね。
- じゃ、いこう。
- はい夕焼け、吉野弘。頼むよ付いて来てくれよな。夕焼け、吉野弘、はい。いつものことだが、……〔全員夕焼けを読む。この間、Tは『夕焼け』と黒板に書く。〕
- T₃ はい、どうもありがとう。それじゃねえ、今度は、一人で、誰か、読んでもらいたいんだけど、今日はあのみんなに、なんか意見を言ってもらうから、順番に行きますんでね、じゃ、菊池君。
- S₁ 読みます。
- T₄ はい。〔『夕焼け』を読む。9時52分の時計盤が映る。〕
- T₅ はい、大体ね、今ぐらいの菊池君のペースで読むとちょうどいいかな。もうちょっとね、元氣よく読んでくれれば、もっといい、さて、それじゃですね、まずこの詩の中の、登場人物ですね、これを確認してみたいと思います。〔『登場人物』とTが板書する。〕
- T₆ それじゃ順番に、いってみよう。じゃ古館さん。
- S₂ 若者と娘。
- T₇ あっ二つ出ちゃったな、はい若者と娘。はい、じゃー、あとは、えーと、藤沢くん。
- S₃ 年寄り
- T₈ 年寄りね。〔『としより』とTが板書する。〕
- T₉ はい、年寄り
- T₁₀ じゃ、次、浅沼さん。
- S₄ 別の年寄り。
- T₁₁ 別の年寄り、確かに。じゃねえ、年寄りはどうしようかな、分けちゃおうかな。じゃ、最初の年寄りってのは、年寄りA、別の年寄りだから、年寄りB。
- はい、じゃ次、柳沢君。
- S₅ 僕。
- T₁₂ 僕。〔『僕』とTが板書する。〕
- T₁₃ はい、あと他には、菅野さん。
- S₆ えー。
- T₁₄ ないかな。ふうー、その中であって、年寄りが三人出てくるから、A、Bが来たら、Cがないと。
- S₇ としよりC。
- T₁₅ じゃ、年寄りCね。順番がおかしいな。これを年寄りCにして。〔板書してあった『僕』を消して、代わりに『としよりC』とTが板書する、次に『僕』を板書する。〕
- T₁₆ さて、これが全部の登場人物だけでも、こん中で、この詩の中心となっている人物（下線部声で強張している）、といったら、誰を挙げるのか、な、村井さんかな。
- S₈ 娘。
- T₁₇ そうだね、娘だね。この、娘が（と言いなから、板書された『娘』を○で囲む）この詩の中心だね。娘の気持ちとかをこの詩では言っている訳だから。〔望月が介入〕
- M₁ ちょっと待ってね、ちょっと待ってね、今、村井さんが娘だと言ったけれど、同じだと言う人いる。同じだと、娘がこの詩の中心だと思う人、ちょっと手を挙げて、はい、はい、はい。娘以外だと言う人いないかな、中心人物娘以外。はい、いないわけね、みんなは、娘だということね、はい。
- T₁₈ んーと、娘が中心となっているわけだけでも、全体から見て、だいたい娘のいろんな気持ちってのは、読み取れる、詩なんですけども、実は娘が自分の気持ちとかを書いている訳じゃないんだよね。とすれば、娘は、娘の気持ちっていうか、そういう娘の行動を書いて、書いているというか、見ているのは、一体誰なんだ、誰なんだということが、ちょっとよく分からないんだけど、次は、これ、何って読むんですか。

- [名簿の名前の読み方をクラス担任にTが尋ねる。]
- C₁ 山岐。
- T₁₉ 山岐君、じゃ 娘のことを見ているっていうのは一体誰でしょう。
- S₉ 僕っていう人じゃないかと思います。
- T₂₀ じゃ次、山口さん。
- S₁₀ 私も僕でいいと思います。
- T₂₁ 他の人、僕じゃないという人いますか。大体、みんな僕でいいのかな。
- S₁₁ はい。[全員]
- T₂₂ 実は、その通り僕なんですよね。ええーと、こっちは四角。[と言って板書された『僕』を囲む。]
- つまり、この詩は、僕が娘のことを見て、見ている様子っていうかな、僕の気持ちを書いているということ、を、ちょっと頭の中に入れておいて、進んで行きたいと思います。
- さて、それじゃね、この、僕ですね〔『僕』と板書しながら〕、僕は娘のことをどういう人だと思っているか、これを聞いてみたいですが、佐藤君。
- S₁₂ やっぱり、やさしい心の持ち主、っていうかそう思っていると思います。
- T₂₃ 〔『娘のことを、やさしい心の持ち主』と板書しながら〕やさしい心の持ち主ね。では、次の大滝さんは、どうかな。
- S₁₃ 佐藤君と同じく、やさしい心の持ち主だと思います。
- T₂₄ やさしい心の持ち主ね。
- じゃ、次の人にもいってもらおうかな。
- S₁₄ 私も同じだと思います。
- T₂₅ じゃ、今、三人に聞いたんだけど、三人とも、やさしい気持ちの持ち主っていうふうに、僕は娘を見ていると考えている訳だ、それじゃねえ、今度は、僕がね、じゃ何で娘のことをやさしいと思ったのかを、それをちょっと聞いてみたいんだけど。その後ろは、鈴木君かな。
- S₁₅ はい。
- T₂₆ はい、どうぞ。
- S₁₆ はい、年寄りに席をゆずったから。
- T₂₇ 年寄りに席をゆずったからね、なるほどね〔『年寄りに席をゆずった』と板書する〕。年寄りに席をゆずったから、娘はやさしいのだと、佐藤君は思った。ああ、ごめん、鈴木君だ。他にいないかな。うんじゃ、鈴木君と阿部さん。
- S₁₇ と、私もやはり鈴木君と、同じです。
- T₂₈ 同じか。小田島君はどうかな。
- S₁₈ 私も同じで、年寄りに席をゆずったから。
- T₂₉ それじゃねえ、もしこれ以外に何か、娘がやさしいのはどうしてかってのが、ある人いるかな。いたらちょっと、手を挙げて下さい。佐藤君。
- S₁₉ うーと、あの一、うーと、席をゆずらなかった場合だったんだけど、うーと、その一年寄りの辛さを、自分の辛さに受け止めて、そして、こう、自分をせめているというか、そういうことをしている。
- T₃₀ なるほど、じゃ、一応、席をゆずらなかったから、ゆずらない所で、……〔板書〕……何か……席をゆずらなくて、年寄りの辛さを、自分のように感じたから、そこで僕は娘をやさしいと思ったのが、佐藤君の意見だけれども、他に。
- M₂〔確認の為〕 ちよっ、ちよっ待ってね。
- T₃₁ えっ。
- M₃ 佐藤君が不満なのは、「から」が、「から」が問題なんだ。ゆずらなくても、にしよう。
- S₂₀ はい。
- T₃₂ ゆずらなくても。さて、それじゃ、ちよっ、あと、他に、何かある人いるかな。娘がやさしいと思う理由。ないかな。じゃねえ、ちよっ聞いてみるけど、年寄りに席をゆずったから娘がやさしいと思う人は、ちよっ手を挙げて下さい。〔生徒挙手する。〕
- T₃₃ うー、はい、どうも有り難う。大体、30人位かな。残りの人は、ゆずらなくても娘はやさし

いからと。

M₄ ちょっと待ってね。そこのところ聞いて下さい。

T₃₄ はい、それじゃ、ゆずらなくても、娘はやさしいんだと思う人は手を挙げて下さい。〔生徒挙手する。〕

T₃₅ 9人。はい、それじゃ

M₅ ちょっと待ってね。今、両方に手を挙げた人いるでしょう。両方に手を挙げた、ね、何故両方に手を挙げたか、ちょっと聞いてよ。

T₃₆ はー、はい。じゃ、どうして両方に手を挙げたか、ちょっと説明して下さい。

S₂₁ 両方手を挙げたのは、えーっ、あの、ゆずるっていうのも、まずやさしいし、で、今度、ゆずらなくて、ゆずらなくても、ね、普通の人だったら、ゆずるか、それでも、ゆずらなかったら、全然自分をせめるようなことなく、のほほんとしてるんだから、やっぱり、そういうところにも、やさしさがあると思います。

T₃₇ ということは、こっちの場合は、何ていうかな、席を、ゆずる、やさしさだな。こちらは、何って言うか、立たないことをせめてる、自分の気持ちをせめるやさしさだな、そんな所でのいのか。

S₂₂ はい。

M₆ はい、それじゃ、ちょっと書いて下さいね。ちょっとねえ、あのー、後の方に手を挙げた人、もう一回、もう一回手を挙げて、席をゆずらなくても、って言う方に手を挙げた人もう一回、〔生徒の挙手を見る〕その人達はみんな今、佐藤君の説明と大体同じ、同じ、今手を挙げた人の中でちょっと佐藤君の説明と違うんだっていう人いる。んー、大体同じ。はい。

T₃₈ えっとーじゃ、意見出してもらった結果、あの、娘がやさしいと思うのは、んー、まとめちゃうと、席をゆずるからやさしいんだ、あー、席をゆずるやさしさと、自分をせめるやさしさ、ってのが出たんだけど、今はねえ、これ、ど

っちが、なんか、この詩の中心かつてのは、まあ、とりあえず置いといて、自分でちょっと考えててね。今度はねえ、別の意味からの、なんていうかな、娘のやさしさについて考えてみたい、と思います。えーとねえ。

M₇ ああ、ちょっといい、そこね。

じゃ今、そこの先に行く前の所ね、もう一回整理しときますとね、こういうことですよ、えっと、みんながやさしいと言ったのは、みんなが、あつこれがね、みんながやさしいといった内容で、席を、席をゆずったって言うのを仮に丸Aとしておきましょうか、ねえ、ゆずらなくても、って方を仮に丸Bにしておきますと、みんながいったやさしいの中にはね、丸Aと丸Bがあるのね、で、穴久保先生が言ったのね、じゃ、この作者は丸Aを、やさしいのは確かに両方含まれているんだけど、丸Aを強調したいのか丸Bを強調したいのか、って言うことを、そのうちに聞くよ、こう言ったんですね。で、そのためには、ちょっと問題を取って置いて、他に行きますよと、こういうことですよ、いいですか、はい。

T₃₉ あー、すみません、どうも説明不足で。〔全員笑う、黒板を拭く〕

T₄₀ という訳で、じゃ、別な所やります。別な所というとおかしいけれども、あのねえ、後半、僕が電車を降りてからの中で、やさしい心の持ち主は、いつでもどこでも我にもあらず受難者となる、っていう所が、あるよね。そこで、この受難者っていう言葉について、ちょっと考えて、みましょう。〔『受難者』と教師Tが板書する〕

さて、受難者、これはどういう意味でしょうか。ちょっと聞いてみるね、最初に、さっき何処までいったっけか。阿部さんまで、あー、違う、佐々木君まで、あつ違うな。〔Tは頭を掻く〕

M₈ ちょっと教えて上げて下さい、先生に、さっ

き最後に発言した人。

T₄₁ じゃ、次は遠藤さんをお願いします。受験者ってどういう、意味でしょうか。

S₂₃ よく、分かりません。

T₄₂ ちょっと分からない。んー、坂井君はどう。

S₂₄ 僕も、分かりません。

T₄₃ うー、じゃねえ、他にねえ、この、受けるっていう字でしょ、これつく言葉ちょっと、挙げてくれないかな。

S₂₅ 受験。

T₄₄ んー、やっぱりみんな受験って出るね、そんな気にしてるんだ、やっぱり。他にはどんなのが、あるでしょうか。

S₂₆ 受け付け。

T₄₅ 受け付け、か。合っただけだねえー、今回は、これ、じゅって読んで欲しい訳ね、なんかないかな、えっ、

S₂₇ 授業。

T₄₆ 授業、授業のじゅは漢字がちょっと違うね、他になんかないかな、たとえば、さあー、デビューした歌手が、新人賞なんかを取ったとするのを、

S₂₈ 受賞。

T₄₇ 受賞だね、うん、それを待っていたんだ、〔受賞とTが板書する〕、まあ、とりあえず、二つ出たけれども、これね、受験の験ってこれ試験の験でしょう、これ受けるでしょう、試験を受けるでしょう、こっちは、賞を受ける、別の意味なんだかな、与えられる、だから、この場合は難を受ける者、これを受難者、難を受ける者、〔『難を受ける者』と板書する。時計の文字盤が10:10であることを映す〕、難を受ける人が受験者だけど、これじゃ、真っ直ぐ過ぎるんでね、この難という字がね、ちょっと面倒くさいね、これ、難で、あっ、音読みか、音読みだね、でこれを訓読みにしたら、難しいだね〔『難しい』とTが板書する〕。

さて、じゃ、この場合の詩に当てはめて考え

てみよう。あっ、だめ、ごめん、ちょっと今の、なし。次の人は菊池さん、ちょっと質問するけど、たとえばね、数学なんかでさあ、ものすごく難しい問題もらったらどうなる、難しい問題もらったら、これを先生に解きなさいと言われてたら、自分としてはどうなる、解きたいんだけど、解けない、なんか心情っていうかさあ、たとえば、あせるとか、そういう感じで自分だったら、もし、難しい問題もらって、どうしても解けなくて、ってどうなる。ちょっと分かんないかな。なんか解き方が、じゃあさ、一杯あって、どういふのか分かんないったら、そういうことになったら、どうなるかな。ちょっと分かんないかな。なんとなくさあ、苦しくなる、どうやって解いたらいいだろう、これ、っていう感じでさあ、ちょっと強引なこじつけかもしれないけど、

M₉ ちょっと待ってね、じゃ、ちょっと、ちょっと聞こう。こういうのは読めます、こういうの分かる。こういうの〔『困難』と板書する〕。何て読む。

S₂₉ 困難。

M₁₀ 困難でしょう。こっちは。〔『困』を指す。〕

S₃₀ 困る。

M₁₁ 困るということね。この場合ね、同じ意味の言葉が大分あります。困難、同じ意味を含んでいる。じゃ。

T₄₈ と、いう訳で、難しいっていうのは、困るとか、苦しむということに繋がることが分かっただけでしようか。

だから、この場合は、この難っていうのは、難しさっていうよりは、むしろ、苦しみとか、そういう意味で取った方がすっきりしますね。

さて、それじゃねえ、詩の方に戻って、やさしい心の持ち主っていうのは〔10:15〕、さっき出たけれども、娘のことだね、じゃなんで娘が受験者になっちゃったのか、これを聞いてみようね。大野君。

- なんで娘は受難者になったんだろうね。
- S₃₁ 年寄りに席をゆずって自分は立っていたからです。
- T₄₉ 自分が立っているから、じゃ、他の意見も聞いてみたいですね。次の長沢君。
- S₃₂ はい。
- T₅₀ どうして娘は受難者になったんだろう。
- S₃₃ やさしい心にせめられたから。
- T₅₁ やさしい心にせめられたから。
- M₁₂ ちょっといい、何といたしましたっけ。長沢君、先生ちょっと耳が悪いんで。
- T₅₂ 隣の千葉さん。どうかな。
- S₃₄ (無解答)
- T₅₃ ちょっと分かんない、分かんない、じゃ、ちょっと考えてね。じゃ、隣の人先に行こうか。
- S₃₅ 他人の辛さを自分の辛さのように感じているからだと思います。
- T₅₄ はい、他人の辛さを、自分のことのように感じているからね。他に、何かこれといった意見のある人いるかな、じゃ、いないかな、もし、じゃ、近藤さんはどうかな。
- S₃₆ ありません。
- T₅₅ あっ、同じような意見だったら、いいよ。
- S₃₇ 同じです。
- M₁₃ どれに同じと言っているわけ、どれに。
- S₃₈ 他人のつらさを自分のつらさのようにかんじるから、というのに。
- T₅₆ 分かりました。それじゃ、あの何で、娘は受難者かってってのを理由を挙げてもらったんですけど、ちょっと聞き方がまずかったんですよ。じゃねえ、ちょっと質問を変えてみたいんで、娘がねえ、受けたものが何で、苦しみ、これが何かってのを分かっちゃえば、何で娘が受難者になったかかってのが分かるんですよ。娘の、受けた、苦しみ、ね、これが一体何であったかかっていうのを、今度は、聞いてみるね。んーと、寺沢君。
- S₃₉ はい。えーと、えっと、年寄り、年寄りCの時は、あの娘が席をゆずらなかつたわけですが、そんな時に、そんな時に、その娘は、やっぱりゆずればよかったなという気持ちに苦しんだと。
- T₅₇ んー、なるほどね。つまり、何って言うかな、最初の、これかな、自分をせめる、やさしさっていうか、自分をせめちゃったから、苦しいということかな。本当は、席をゆずらない、自分をせめる、苦しみと、こういうことを、寺沢君はいつてくれたんですね。であと、もう一人に聞こうかな、後ろの横橋君かな。
- S₄₀ うんと、僕も寺沢君と同じだと思います。
- T₅₈ 同じ意見ね。違った、意見、ある人いるかな。どうだろ。じゃねえ、席をゆずらない自分をせめる苦しみが娘の受けた苦しみだって、思っている人は、じゃちょっと手を挙げてもらえませんか。〔生徒が手を挙げる〕
- T₅₉ [10:20] はい、どうも有り難う。じゃ、ねえ、横の中崎君かな、中崎さん？ 中崎さん。ちょっと手を挙げなかつたんだけど、中崎さんどう思う。
- S₄₁ 分かりません。
- T₆₀ あっ、分かんない。じゃ、これが分からないっていう人、手を挙げて下さい。〔生徒、手を挙げる。〕
- T₆₁ はい、どうも有り難うございます。
- M₁₄ ちょっと待ってね、ちょっと。えっとねえ、先生、まだ、かたっぽまだやっていないんだよね 穴久保先生ね、さっき、なんてったっけ。長沢君だったっけか、長沢君だったっけ、自分が立っているからと、言い出したっけ、誰が言い出したっけ、誰か、君か、ごめんごめん、どうもだめだねえ、大野君ですか、太野君ですか 大野君。
- S₄₂ 太野。
- M₁₅ 太野君ですか、ごめんなさい、太野君から出た、自分が立っているということになるでしょう。これを取り上げて、これを取り上げていない。これとこれを聞いて下さい。これに賛成の

人と、大体、今、おおきなのはこれとこれだと思わすけど、何人からかだて。自分が立っているからというやつね。

さそこで、もう一回聞き直して下さい。

T₆₂ あっ、すみませんでした。じゃ、あの、さきほどのこの意見ですね。

M₁₆ 太野説ね、太野説に賛成の人を聞いてください。

T₆₃ 自分が立っているから苦しいんだと思う人は、手を挙げて下さい。

あれ、どうしたの。

S₄₃ 違うくなったから。

T₆₄ 違うくなっちゃった。

M₁₇ じゃあその、どうして違う、違うようになってきたかってことを、ちょっとね、説明してくれる。最初はね、こういうふうにしたけど違うふうになったってことを、ちょっと言って下さい。

S₄₄ 他人のつらさを自分のつらさのようにかんじるから、えっと、自分が座ってたら、年寄りの人がたっていて、その年寄りの人がつらいから、自分もつらくなるので、やっぱし、自分が、あ、年寄りに席をゆずった方が、自分の心がなんか、んー、いくなるっていうか、そういう…。

T₆₅ じゃ、太野君もこっちの意見の方に移っちゃった訳ね。

M₁₈ じゃ、じゃあねえ、もう、太野、太野説は消えましたから、皆さん、こうですからね。あとは、これが納得できるかどうか、ね。この中身が、わかるかどうか、ね、こういう問題なんです。じゃ、どうぞ。

T₆₆ つまり、なんていうか、娘のうけた苦しみていうのは、席を譲らない自分を責めちゃった訳だからね。だから、つらくなっちゃった訳だね。ちょうど、詩のなかに、この、なんていうか、席を立たなかった所では、娘は、下唇をキュッと噛んで、身体をこわばらせてって、これは、なんていうかなあ、んー、私もそうだった

けど、先生に怒られると、どうしても下を向く、ってなっちゃうから、そういう感じだね、つまり、なんていうか、苦しむっていうか、悪いなあっていうかんじだな。そういう感じを娘は持っちゃった訳だね。なんの、なんていうか、意識もないうちにね。だから、娘は受難者になってしまったんですよ。いいかな。受難者ってこと、わかったかな。娘はどうして受難者になっちゃったかってこと。わからない人、いたら、ちょっと手を挙げてもらおうかな。

T₆₇ いいかな、じゃ、進むよ。

M₁₉ 今、なんか、皆、納得したような顔じゃありませんけど、もう一度やさしさの所に戻りますから、そこでね、もういっぺん考えて下さい。はい。

T₆₈ では、なんで受難者をやったかという、娘が受けた苦しみていうのを、ちょっとわかってないね。この、どっちがやさしいのかが、わかんないからね。どっちの、AかBのやさしさに、なんて言うか、僕は感じたのかっていうのがちょっとわからないんで、受難者についてやったんだけど、席を譲らない自分を責める苦しみが、娘が苦しみて、つまり、やさしいが故に自分を責めちゃったのが、娘の受けた苦しみだね。それを考えて、僕が娘の事をやさしい心の持ち主だと思ったとすれば、A説とB説、AのやさしさとBのやさしさでは、どちらの方が適当なんだろうね。えーっと、さっきはどこまでいきましたっけ、中崎さん。じゃあ、坂屋君、僕はどっちで、AとBのどっちで娘がやさしいと思ったか。

S₄₅ A説。

T₆₉ A説ね。年寄りに席を譲ったからやさしいと思った訳ね。じゃあ、もう一人聞いてみよう。長嶺さん、どっち、年寄りに席を譲ったからやさしいと思ったのか、譲らなくてもやさしいと思ったのか。

S₄₆ A説。

T₇₀ A 説ね。松原君はどうか。

S₄₇ B 説。

T₇₁ B 説。松原君は譲らなくてもやさしいというわけだね。じゃあ、今度は皆に聞いてみるけど、譲ったからやさしいと、あっ、違った、年寄りに席を譲ったからやさしいと思う人は、手を挙げて下さい。これ一回目ね、今度二回目。年寄りに席を譲ったからやさしいと思う人、ちょっと手を挙げて。

じゃあ、譲らなくても、つまり、自分を責めるやさしさを、僕は感じて、娘をやさしい心の持ち主だと思ったと考える人は、手を挙げて下さい。

うん、実際はこっちの方なんだね。自分を責めるやさしさを僕は感じたから、娘がやさしいと思ったんですね。で、説明さっき悪かったかも知れませんが、こっちへ一回戻りましてね。席を譲らない自分を責める苦しみね、席を譲らないから苦しんじゃうってのは、やっぱり、ねえ、やさしさがないと、ないわけですよ。別にどうでも良かったら、さっきだれかが言ってくれたけど、座ってても何も感じないわけだよ。自分も座りたい、そういう事ばかり考えていけばね。ところが、譲らない自分を責めるっていうのは、やっぱり年寄りがつらいっていうのを自分のものにしていうか、立たなくてごめんなさいっていうか。最初、二人に席を譲ったでしょ、年寄りAと年寄りBね。で、三人目に譲らなかったっていうのは、やっぱり、悪いなあっていう感じがあるんだよね。それで、悩んじゃった娘が、だから、なんていうかな、娘の気持ちの中にやさしさがあったからこそ、なんていうか、ああいうくすみを受けちゃったんだね。だから、僕っていう人は娘のそういう態度とか、気持ちを、なんていうかな、心の中を察してね、それを娘から、なんか、感じ取って、娘の事をやさしい心の持ち主ってしっちゃた訳なんだね。どうだろうね、わかる

かな。気持ちっていうか、やさしさが。

M₂₀ ちょっと、もう時間がありませんので、もう一回、もう一回やるね。やさしさっていうのは、だからやさしさっていうのは、○Aと○Bがあって、Aの方は、席をゆずってやるやさしさね。

これは、この詩の中には両方のやさしさが書いてあるけど、これは、そこら中に見られるやさしさね。席を譲ってやるやさしさは、そこら中に見られるやさしさ。ところが、席を、席を譲らないのをね、席を譲らないのをやさしさっていうのは、ちょっと珍しいでしょ、ね、そういう人をやさしいっていうのは。だから、どっちを、どっちをこの人が書きたいかっていうとね、珍しい方を書きたい訳ね。そこがちょっと、今日は、説明が不充分だったような気がするね。そういう事なんです。そして、その席を譲らない方を、席を譲らない方をやさしいとして、席を譲らないで悩む人を受難者ってしたわけですね。ここが、この作者の作戦がちょっとわかりづらかったかも知れないね。こっちも入ってるんだけど、席を譲ったからやさしいってのは、これは世間の人、一般的には当たり前やさしさ。それから、席を譲らなくても、悩んでるからやさしいんだっていうのはね、ちょっと珍しいでしょ。その珍しい所を、本当は言いたかったんだね。

T₇₂ じゃあ、あの、今日は、このね、娘のやさしさっていうのをね、それを分かってもらえればうれしいですね。今日の授業は、そこだったんですから、もし、よく分かんない時は、なんていうか、もう一回自分で読んでもいいし、じゃなかったら、大学の方に文句言いに来てもいいしね、もう一回説明しますので。じゃあ、今日はこれくらいいしましょう。はい、どうも有り難うございました。

「夕焼け」(吉野弘)

研究・実践文献目録

- 1) 仲田敏基「詩の授業研究へのアプローチ」、『国語教科書の詩 中学校篇 その教材研究と授業過程案』(有信堂, 1972-8) pp. 251~282。
- 2) 「作品研究 吉野弘作『夕焼け』」, 『日本文学教育連盟編『文学教育ハンドブック・詩の教材と指導の要点』(1977-7)。pp. 1 pp. 188~196。
- 3) 安藤操「心にひびく詩の授業」, 『文学教育』(新評論, 1978-8) pp. 34~48。
- 4) 西前恒夫「『夕焼け』の指導案と授業」, 『実践国語研究』No.16 (明治図書, 1979-11) pp. 114~117。
- 5) 金子秀俊「夕焼け 吉野弘 <中>」, 吉田熙生編著『中学校・高等学校のための詩の読解指導』(東京書籍, 1980-4) pp. 129~141。
- 6) 高橋宗近「吉野弘『夕焼け』」, 『中学校国語科教育の理論と実践5 第5巻 文学的文章 II』(有精堂, 1981-2) pp. 56~68。
- 7) 仲田湛和「教材としての詩」, 『詩のわかる教え方』(明治図書, 1981-3) pp. 65~70。
- 8) 中島清志「中学校段階における教材解釈のつまづき」, 『教育科学 国語教育』No. 288 (明治図書, 1981-5) pp. 50~55。
- 9) 西郷竹彦「吉野弘『夕焼け』」, 『詩の授業理論と方法』(明治図書, 1981-5) pp. 192~201。
- 10) 北林正「子どもの疑問を深める」, 『教育科学 国語教育』No. 297 (明治図書, 1982-1)。pp. 66 ~71。
- 11) 市毛勝雄・冲山吉和・高橋宗近・高木大五郎「(座談会) 詩の授業——『夕焼け』(二年)を中心にして——」, 『国語教育相談室』No. 266 (光村図書, 1982-10) pp. 11~24。
- 12) 市手勝雄『文学教材で何を教えるか』(明治図書, 1983-8) p. 258。
- 13) 中村順吉「夕焼け(吉野弘)」, 浜本純逸・森田信義・東和男編『作品別 文学教育実践史事典』(明治図書, 1983-9) pp. 273~279。
- 14) 北田博史「わたしはこう指導する——『夕焼け』(二年・単元五)」, 『国語教育相談室』No. 285 (光村図書, 1983-10) pp. 10~12。
- 15) 古神子民夫「生徒をひきつける発問——『夕焼け』(教出一年)——」, 『教育科学 国語教育』No. 331 (明治図書, 1984-5) pp. 63~68。
- 16) (長谷部和子「夕焼け 吉野弘 の教材研究と授業」, 小林一仁・市毛勝雄・須田実編『中学国語教材研究と授業』No. 4 (明治図書, 1984-7) pp. 70~76。
- 17) 野村由香里「吉野弘の詩について——国語教材としての考察——」, 「奈良教育大学 国文——研究と教育——」No. 8 (奈良教育大学国文学会, 1985-3) pp. 29~40。
- 18) 八幡健吾「『夕焼け』(吉野弘)について」, 『月刊 国語教育』No. 42 (東京法令出版, 1985-3)。
- 19) 池田久美子「『夕焼け』の授業における『自我』の欠落——文化的同調の要求——」, 『信州豊南短期大学紀要』No. 2 (1985-3) pp. 337~360。
- 20) 宇佐美寛「『自己』(1)」, 『教育科学 国語教育』No. 347 (明治図書, 1985-5) pp. 119~125。
- 21) 阿部深雪「二つの詩を重ねて読ませる指導——『夕焼け』と『大阿蘇』の場合——」, 『教育科学 国語教育』No. 38 (明治図書, 1985-6) pp. 74~79。